柿生文化

平成２１年 ８ 月２７日
川崎市立柿生中学校
郷土史料館情報・研究誌
第１３号

柿生人物誌　柿生を愛した民俗学者　柳田國男

校長　板倉 敏郎

（柳田國男）

柳田國男は、明治８年（１８７５年）兵庫県に生まれました。青年時代は、詩人として活躍し、やがて政府の法制局参事官、貴族院書記官長、朝日新聞社論説顧問等を歴任した後、３０歳代半ば頃より本格的に民俗学（伝統的な生活文化・伝承文化について研究する学問）の道を歩むことになりました。

柳田國男は、言うまでもなく日本の民俗学の創始者ともいわれる人物で、非常に沢山の研究を残されています。日本全国を自分の足で廻り、自分の眼・耳や感覚など、直接体感するなかで研究を深めていきました。家は、東京の成城にありましたが、『水曜手帳』（柳田國男全集 第3巻）を見ると時々、小田急線に乗って多摩区・麻生区の辺りに足を延ばしていたようでした。

また、昭和１９～２０年の２年間にわたる自身の日記である『炭焼日記』（柳田國男全集 第32巻）に、柿生や周辺の様子ににについて多く書いているので少し紹介します。

○昭和１９年２月１６日（水）　好日　午後曇り　「９時の江ノ島行きにて柿生まで、多摩郡の一方の端、平尾の杉山神社に詣で、坂浜に出て長沼より帰る」

○同年３月９日（木）好く晴れ　朝うぐいす枕元に来てなく　「三輪村に遊ぶ。熊野社と杉山社に詣でる。川を隔てて都筑郡麻生村、今は横浜市、鳩多し、所々の梅、月読社に詣で岡を越えて柿生まで」

○同年３月２７日（月）　和日　風やや冷ややかなり　「小田急にて柿生まで、あんまり混んだので鶴川まで乗り越し引き返す、能ケ谷の灸点（お灸のツボ）の話を聞く丘を越えて真福寺へ。ヤトをまちがえて王禅寺の梅へは行けず」

（生田春秋苑の柳田國男の墓石）

先程の『水曜手帳』の「王禅寺」の項目には、子供の手形を押した白い紙が戸口の上に張りつけてあり、そこには母の筆かと思われる「コノ手ノ子ドモハルス」（子の手の子供は留守）と書いてあったと記しています。ジフテリア予防のまじないらしいですが、この当時の柿生の習俗の様子をよく表わしています。

ちなみに、柳田國男の墓地は、生田の丘陵にある春秋苑にあります。著作の中に「古来、日本人は死ねば魂は山に登っていくという感じ方が意識の底にある」また「一つの学問が世の中に寄与するようになることを、どこかささやかな丘からでも見守っててたいと思う」と記しています。柳田にとって、その丘こそが春秋苑ではなかったでしょうか。

シリーズ　「麻生の歴史を探る」　第１２話

王禅寺　その１　謎の王禅寺跡（東柿生小）

王禅寺（真言宗）というと名産禅寺丸柿の生まれたところで柿生を象徴する寺ですが、この寺は現東柿生小学校の所にあり、元弘３(1333)年の新田義貞の鎌倉攻めの時に焼かれたと伝承されています。今学校のあるところは、昔から「寺畑」と呼ばれ、縄文時代の遺跡で多くの出土品を見ましたが、特に平成５年に行われた体育館建設の際の調査では、奈良、平安、鎌倉時代に及ぶ遺物が発掘され、その中には祭祀用の土師器も発見されたことにより、寺社の跡地であることが分かりました。（現在その一部が学校の資料室に保存されています。）

王禅寺山門

では、それが王禅寺だったのでしょうか。そこにはいくつかの疑問があるのです。鎌倉、室町時代の現下麻生を中心とする地域は、麻生郷の本郷（中心地）でした。北条氏を滅ぼした足利尊氏は建武の中興の恩賞でこの地を所領とし、足利家の祈願所である鎌倉の保寧寺（ほねいじ）（臨済宗）に寄進をし、文和元(1352)年には保寧寺領に乱暴、狼藉を行わないように禁制を出しています。有名な等海上人の王禅寺再建は応安 3(1370)年ですから、臨済宗保寧寺の所領に真言宗の寺を建てたのでしょうか？また等海上人は王禅寺の山中で甘柿を発見しますが、当時この地は人里であり山中ではありませんでした。なお、これ程の大寺が焼けたまま約 40 年間も放置されていたのでしょうか？また、もともとこの地は鎌倉北条一族の支配地で、御家人甘縄時顯の薬師寺という所があり、そのため新田義貞は寺を焼いたと頷かれるような説もあります。

いずれにしろこの地にはお寺がありました。この辺の小字を「荒立」と呼びますが、そこで焼けた寺の本尊を「洗い出し」たからその名が起きたといわれています。洗い出された仏像は、王禅寺の本尊「聖観世音菩薩像」だったのか薬師寺本尊「薬師如来」だったのかは東柿生小学校の地が秘める永遠のロマンです。

中世、王禅寺を里人は「星降り山」と呼び、禅、律、真言密教の古刹だったと言われます。等海上人は金沢称名寺の名僧で王禅寺中興の祖ですが、室町時代には、俊誉、印融などの高僧が法灯を継ぎます。俊誉上人は鎌倉八幡宮南蔵坊で阿闍梨の高僧、印融上人は多くの仏典、書籍を書写し弟子を育てた当代一流の学僧あり、当時の王禅寺はこの地方の仏教文化の殿堂でありました。

東柿生小学校資料室資料（土師器）

文、小島一也氏

早野 上ノ原遺跡 第３次 発掘調査始まる

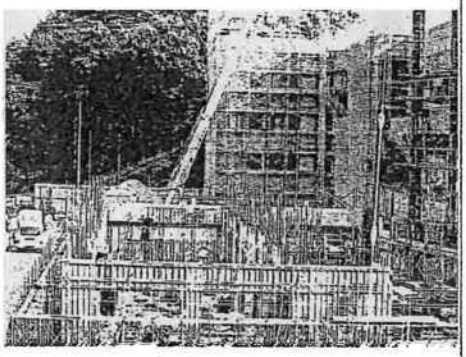
早野戒翁寺横で行なわれていた第２次上ノ原遺跡発掘調査が終了し、先日、７月６日（月）に開催された本校の第１３回カルチャーセミナーでは上ノ原遺跡発掘調査に当たられた吾妻考古学研究所の山田先生をお招きして講演をいただきました。

いよいよ、今年、８月からは第３次発掘調査が始まりました。今回は、旧石器時代の調査を含む地域の発掘調査となります。再び、約２５０００年前からのロマンを私たちに与えていただけますよう期待しております。

着々と進む郷土史料館の建設と運営体制

現在、建設が急ピッチで進められている本校校舎内に造られる「郷土史料館」は、その建設も進み、ある程度の形もできてまいりました。

一方、運営につきましても、校舎落成記念事業委員会のなかに「郷土史料館設立準備会」が設置され、地域住民の皆様をはじめ、歴代ＰＴＡ会長、同窓会のご尽力をいただき、着々と準備が整ってきております。皆様方のご協力もよろしくお願いいたします。



第１４回 カルチャーセミナー開催のご案内

１、期　日　　９月１７日（木）　午後６時より
２、会　場　　柿生中学校　１階 教室
３、講　師　　中西　望介　氏　（郷土史家・西高津中学校教諭）
４、テーマ　　「柿生・岡上の江戸時代初期の墓石からわかる事」

第１５回 カルチャーセミナー開催のご案内

１、期　日　　１０月２９日（木）　午後６時より　※日程を変更することがあります。
２、会　場　　柿生中学校　１階 教室
３、講　師　　二村　俊光　氏　（生田中学校校長）
４、テーマ　　「柿生の自然 ―― 昆虫の生態を探る ――」

―― 英字新聞「ファーイースト誌」がとらえた日本の姿 ―― NO6

幕末期の写真から拾う人々の生活

幕末のサムライとアメリカ人

左の写真は、慶応４年(1868年)撮影。場所は外国人迎賓館に指定されていた浜御殿の庭かと思われます。

右から外国奉行の江連尭則、幕府制定の洋装姿は、同役の石川重敬、中央に和装で厳しい表情をしている人物は老中の稲葉正巳。左端がアメリカ公使のヴォルクンバーグです。

郷土史料館「史料」の寄贈・寄託のお願い

２２年に完成する本校の「郷土史料館」に収蔵する**柿生・岡上に関する**歴史的資料を探しています。ご自宅で保存されている史料（古文書や生活道具類）でお譲りいただけるものや、一時、お貸しいただけるものがございましたらお知らせください。しっかりとした管理体制で収蔵します。よろしくお願いいたします。

◎今、地域の史料を探しています！
協力してください！

◎処分しようとしている
生活古民具や古文書をお譲り下さい

このような史料はありませんか

◎古代の「縄文土器・弥生土器」「石器」「土師器」「須恵器」
◎江戸時代の「検地帳」・「水帳」・「五人組帳」・地域の「絵地図」
◎江戸時代の「高札」（慶応４年の太政官布告「五榜の掲示」など）
◎江戸時代の寺子屋や私塾で使用した教科書・手本「各種往来物」
◎江戸時代の「藩札」「通行手形」
◎明治期発行の「地券」　◎明治期の「自由民権運動」史料
◎明治・大正・昭和（戦前・戦中）の「国定教科書」
◎小型の農具「千歯こき」「備中鍬」「からさお」
◎各時代の「古銭」「生活古民具」（矢立て・印籠・火打ち・鏡・装束など）
◎その他各種史料「各種古文書類」「美術品」

寄贈・寄託していただける史料がありましたらご一報ください。
柿生中学校　０４４－９８８－０００４　黒川まで